

「お話：本田宏医師」

戦争法制と医療崩壊の切っても切れない関係

本田宏医師（外科医、元埼玉県済生会栗橋病院院長補佐）は日本で一番医師が不足している埼玉を中心に36年間外科医として働き、医療現場の実態を明らかにしてきました。

学習会では、ユーモアたっぷりに医療崩壊や戦争法強行などの背景に政治の問題があることを解説し、メディアやお上の情報に惑わされず、主権者国民としてメディアリテラシー（情報の真偽を見抜く力）を高めることで医療問題をはじめ国民的課題を解決することができるとお話されました。

学習会には18名が参加しました。ありがとうございました。



(お話の内容から)

○日本の医療政策は医療費、医師の抑制を行って来ていますが、世界一高齢化が進む日本で、人口あたり医師数は、WHO（世界保健機構）加盟国で63位、OECD（経済協力開発機構）加盟国でビリから6番目で先進国平均と比較すると11万人不足となっています。

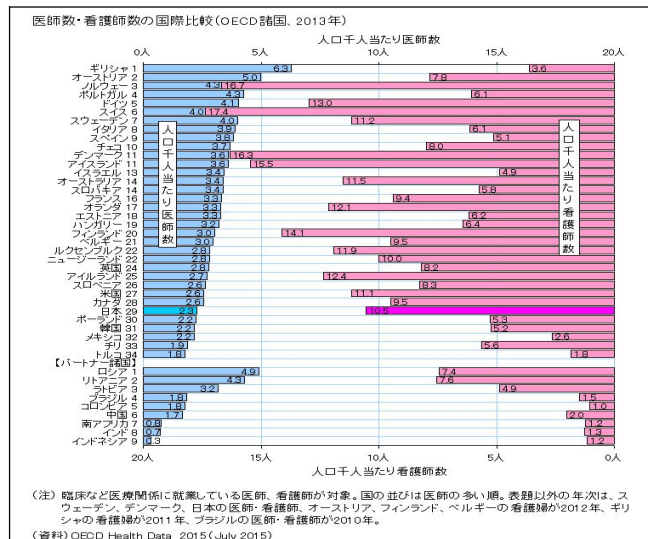
そのため日本では多くの医師が過労死認定基準に達するほど長時間労働を強いられる実態になっています。

救急医療センターでも救急車の急患を受け入れる余裕もなく俗にいうたらい回しが起きることもあります。

このまま医師不足を放置して加重労働を強要してい
たら医療崩壊がさらに悪化します。

<http://www2.ttcn.ne.jp/~honkawa/1930.html>

(2013 年医師数、看護師数の国際比較)



○どうしたらいいのか？

社会福祉が充実している国はいずれも投票率が高い。
(デンマーク 88%、スウェーデン 85%)

日本でも、特定秘密保護法、戦法案、原発、T P P、医療崩壊・・・等、多くの問題が山積みしていますが、これらの課題に対して、どうしたら幸せな国になれるのか、国民ひとり一人が政治への関心を高め世界最高の投票率をめざすことしかないと強調されました。

○感想文から

*本田先生、難しい問題をわかりやすく楽しくお話しくださり、ありがとうございました。人の命を預かる医師があれだけ過酷な勤務を強いられて問題にしない（させない）この国は一体どうなっているのでしょうか？

国民皆保険を誉りに思いますが、ヨーロッパ諸国に比
しませうしい、その皆保険すら、切り崩そうとされてい
る現状痛い日本です。

一部の人の利益を守るために政策が決められている、今の日本、まずはわたしたちが真実を知り声を上げることだと思います。安保法制がきっかけになると期待大です。がんばらないと。

＊日本の医療機関の実態がよく理解できました。医療崩壊がここまで進んでいるとは思っていませんでした。いい勉強になりました。

(本田医師の国会やメディアでの発言から)

①186 国会 2014 年 5 月 7 日厚生労働委員会で参考人意見陳述

<https://www.youtube.com/watch?v=c6Ndii4pliww>

OECD（経済協力開発機構）諸国と比べて日本の医師数が絶対的に不足し、異常な長時間勤務を強いられていることが救急患者の受け入れ不能や医療事故につながっていると強調し、「医学部定員を抜本的に増やすべきだ」と主張しました。看護師配置の最も手厚い「7対1病床」を削減する厚労省の計画について「看護師の待遇が悪化する」と批判しました。

②2015年2月堤未果さんとの対談で著書「本当の医療崩壊はこれからやってくる!」の内容について、どのような対策を講ずるべきかお話をしています。

<https://www.youtube.com/watch?v=wa9ASwcVfNQ>

③富山県保険医協会での講演から（2008年12月）

<http://toyama-hok.com/%E6%9C%AC%E7%94%B0%E5%AE%8F%E6%B0%8F%E8%AC%9B%E6%BC%94%E4%BC%9A%E3%80%80%E4%BC%92>